

お ま え ぎ き こ う

御前崎港周辺エリア

お ま え ぎ き こ う

自然や生業を見て、触って、食べて、感じる御前崎港



①美しい自然が織りなす壮大な風景



②御前崎の海を遊び・味わうことができる観光拠点



③海・平地・高台から見る眺望景観

所在地	静岡県御前崎市港6131、6099-7、6103-1他
面積	約320ha
主要施設	① 御前崎港 ② 御前崎魚市場 ③ 海鮮なぶら市場、観光物産会館なぶら館 ④ マリンパーク御前崎 ⑤ アカウミガメ孵化場
アクセス	【車】 ・掛川駅から車で約45分 ・東名高速道路 相良牧之原 I Cから約25分 【公共交通（バス）】 ・港入り口バス停から徒歩で約25分 ・御前崎小学校前バス停もしくは女岩入口バス停から徒歩約20分

自然

御前崎港周辺では、水平線から月が昇り水平線に太陽が沈む景観や、「マリンパーク御前崎」の高台から見る太平洋越しの富士山など、自然と時間の移ろいによる景観を楽しむことができる。また「マリンパーク御前崎」や遠州灘海岸は国の天然記念物であるウミガメの産卵地に指定されており、卵は孵化場で孵化し、海岸から子ガメを放流する活動が続けられている。

観光

御前崎港一帯は2015年（平成27年）8月に港のにぎわい・観光拠点を意味する『みなとオアシス※』として国土交通省に登録されており、御前崎市観光物産会館「なぶら館」を代表施設とする『みなとオアシス御前崎』として年間を通じて多くの人たちでにぎわいをみせている。

観光物産会館「なぶら館」は観光案内所などを有する観光拠点である。「海鮮なぶら市場」は、海鮮や地元の特産品を買うことのできる「海遊館」と、御前崎港直送の海の幸をその場で味わえる「食遊館」に分かれており、海遊館では地魚や名産品などを買うことができる。

「マリンパーク御前崎」は、御前崎漁港の東側にある海浜公園である。キャッチフレーズは『風と緑と海のテーマパーク』であり、美しい海水浴場とともに、風力発電所「くるくる」、広大な「芝生広場」、オートキャンプ場、全長50mのスライダーが楽しめる。

生業

「御前崎港」は、御前崎市及び牧之原市にある重要港湾である。貨物港として自動車や木材などを取り扱うほか、市内にある中部電力浜岡原子力発電所の核燃料や核廃棄物などを取り扱う、中部電力専用埠頭を備えている。なお近年では大型客船の来航などがあり、観光の地としても活用されている。

また、「御前崎漁港」は市内唯一の漁港であり、市内で獲られた新鮮な魚介類が市場でセリにかけられている。

※みなとオアシス：地域住民の交流や観光の振興を通じた地域の活性化に資する「みなと」を核としたまちづくりを促進するため、住民参加による地域振興の取り組みが継続的に行われる施設を登録するもの。みなとオアシスでは、地方公共団体やNPO団体等が、地域住民、観光客、クルーズ旅客等の交流及び休憩や観光などの情報提供を行っている。 2

2. 対象エリアの位置図



2. 対象エリア図

ヤシの木通り(港内道路11号線)



女岩観音堂から眺めた御前崎港



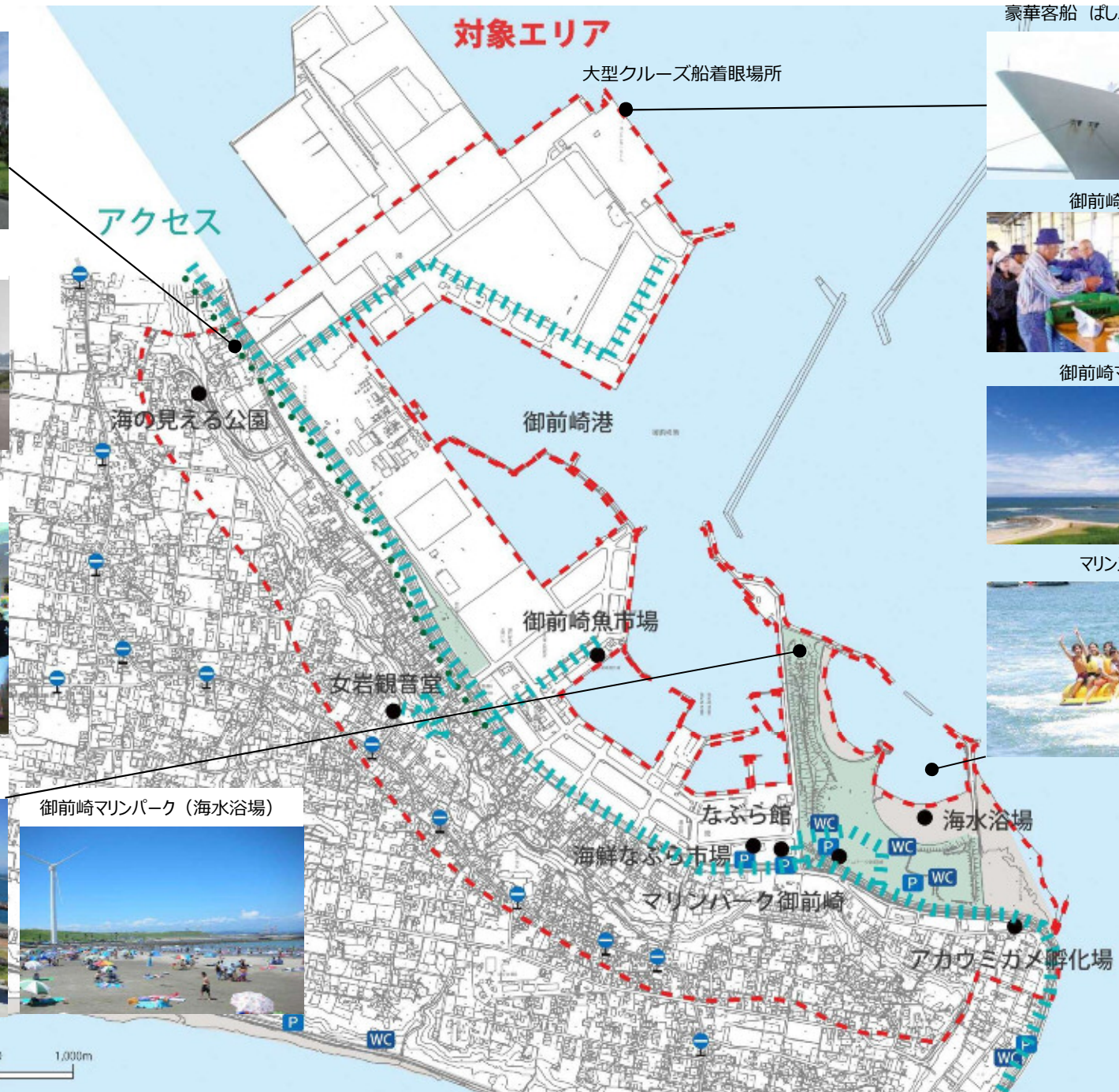
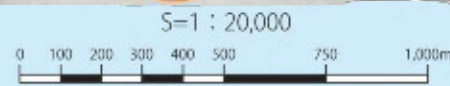
海鮮なぶら市場



高台からの眺望



御前崎マリパーク (海水浴場)



豪華客船 ばしふいつくびいなす号



御前崎魚市場



御前崎マリパーク



マリンスポーツ



① 美しい自然が織りなす壮大な風景

(1) 自然



ウミガメも訪れる美しい海の景観

御前崎港周辺では、水平線から月が昇り水平線に太陽が沈む景観や、「マリンパーク御前崎」の高台から太平洋越しに見る富士山など、自然と時間の移ろいによる景観を楽しむことができる。また「マリンパーク御前崎」や遠州灘海岸は、御前崎遠州灘県立自然公園に指定されており、御前崎の岬を中心とした段丘崖と磯・砂浜の海岸線、その西側遠州灘の海岸線には白砂青松の砂丘地帯が続き、青い海と一体となった景観を見ることができる。また、遠州灘海岸は国の天然記念物であるウミガメの産卵地となっており、昭和47年から本格的な保護活動が行われている。具体的には上陸期間中の海岸巡視、夜間パトロール、海岸清掃、孵化場での孵化や海岸から子ガメを放流する活動（放流観察会）が続けられている。

しかしながら砂浜や港にはゴミの投棄や砂浜の減少が見られるため、海・空・気候・砂浜などが創り出す美しい御前崎港周辺の自然景観を保全する活動を継続する必要がある。

さらにこれからも良好な景観を維持するために、御前崎港周辺エリアに立地する企業は自然環境や景観に配慮する必要がある。

〈景観形成の主な課題〉

- ・景観を形成する砂浜が減少
- ・ウミガメが訪れる美しい海を保全する活動の継続
- ・新たに企業が立地する場合には環境や景観に配慮する必要がある

② 御前崎の海を遊び・味わうことができる観光拠点

(1) 観光拠点



様々な方法で海を楽しむことができる一大観光スポット

「マリンパーク御前崎」は市を代表する観光拠点であり、マリンレジャーやアウトドア、イベントなど様々なレクリエーションを楽しむことができる。

「海鮮なぶら市場」には海鮮や地元の特産品を買うことのできる「海遊館」と御前崎港直送の海の幸を味わえる「食遊館」があり、御前崎の魅力を味わい、購入することができる人気の観光施設である。

「御前崎漁港」では毎年、御前崎みなとかつお祭りが開催され、新鮮なカツオや生シラスを食べることができる。また通常時は釣り船での海釣り、イベント時は模擬セリや漁船乗船イベントを楽しむ観光客でにぎわう場所である。

これらの観光スポットでは様々なプロジェクト（観光物産会館「なぶら館」のリニューアル、オートキャンプ場整備、内陸フロンティアの検討整備）が進められていることから、これからも魅力の増進が期待される。

「マリンパーク御前崎」や「海鮮なぶら市場」等では、海・自然・魚等を楽しみ味わう、人と資源が創出する生業の景観を見ることができる。

しかしながら、地域景観ミーティングでは飲食できる店が少ない、釣りができる環境がほしい等の意見があげられた。この要因はどこで釣りをしたらよいかわからない、釣ったものや観光物産会館「なぶら館」で購入した魚介類を味わう場所がないためだと考えられる。

このことから、今ある資源をさらに楽しむことができる環境を整備（ハードおよびソフト対策）することが必要だと考えられる。

(2) アクセス

イベント時には多くの人々が「マリンパーク御前崎」や「海鮮なぶら市場」を訪れるが、アクセス方法は自家用車のみであり、直接アクセスするバス停がないため、不便である。

〈景観形成の主な課題〉

- ・人や資源が創出する生業の景観とにぎわいを存分に楽しむことができる整備や仕組みづくり
- ・にぎわいの景観を支える来訪者のためのアクセスの利便性向上

③ 海・平地・高台から見る眺望景観

(1) 海からの景観



海から富士山・港湾・市街地を一望

クルーズ船の誘致により、2019年夏に「ばしふいっくびいなす号」が寄港し、その際には地元のおもてなしイベント等が開催された。当日は物産展での買い物のほか、御前崎海水浴場や茶園ツアー等にシャトルバスやレンタサイクルを利用して楽しむ乗客の様子が見られた。このようにクルーズ船の寄港は経済効果だけでなく、地元観光および文化の発信やおひろめの場となり、地域活性化効果が期待される。

御前崎港周辺の地形を考慮すると、ダイナミックなクレーンや港の風情を伝える漁船が並ぶ御前崎港、高台に建つシンボリックな灯台、長く伸びる遠州灘等、陸からは見ることができない景観資源が多く存在する。このことから、御前崎の魅力を高め、今後もクルーズ船の寄港を促進するために、御前崎港を含めた周辺観光地の楽しみ方を検討するとともに、船上から見る景観にも配慮することが望ましい。

- － 構造物等が港湾の景観を損なわないように留意
- － 構造物等が高台に建つ灯台の景観を阻害しないように保全
- － 遠州灘海岸の景観が保全されるように配慮

(2) 高台からの眺望



高台等から望む海と移ろいの景観

「マリンパーク御前崎」では、水平線から月が昇り水平線に太陽が沈む景観や、「マリンパーク御前崎」の高台から太平洋越しに見る富士山など、自然と時間の移ろいによる景観を楽しむことができる。

このことから、御前崎港周辺エリアの眺望を適切にPRし、魅力ある景観を広く伝える必要がある。

〈景観形成の主な課題〉

- ・富士山や港湾および市街地への景観が損なわれないように、海からの景観に配慮（構造物や色彩等）
- ・陸から周辺への眺望が体験できる場の景観保全とさらなる高台視点場の整備

③ 海・平地・高台から見る眺望景観

(3) 市街地からの眺望



市街地の高台から望む御前崎港

女岩周辺は道が蛇行しており、カーブから御前崎港周辺を見渡すことができる気持ちの良い場所である。しかしながら、知名度が低く地元の人にしか知られていないため、観光客は訪れない。このため、適切なPRが必要である。

また女岩区観音堂周辺の緑地公園からも港と富士山を一望することができるため、視点場として活用できる可能性がある。

(4) 平地から見る眺望



ドライブにより南国の雰囲気を感じる沿道景観

「御前崎港」周辺の道路はヤシの木が整然と並び、南国の雰囲気があふれる空間（ヤシの木通り（港内道路11号線））となっている。この道は金谷連絡道路から御前崎港にアクセスする際に通るルートであり、ヤシの木が整然と並び南国の雰囲気をドライブで楽しむことができる。

このことから、ヤシの木通り（港内道路11号線）～マリンパーク御前崎間は御前崎港エリアの観光地としての風情を印象付ける“もてなしの空間”であることから、現状の雰囲気を維持するように沿道の眺望景観を保全する必要がある。

〈景観形成の主な課題〉

- ・港湾や海岸を眺めることができる視点場の整備
- ・南国や海辺の雰囲気が感じられる沿道景観の維持

自然や生業を見て、触って、食べて、感じる御前崎港

地域住民の視点

- ・12月から1月にかけて水平線から月が昇ってくることやワカメ採りの様子など、自然が創り出す美しい景観がある
- ・海のゴミをなくして赤ウミガメをもっと上陸させたい
- ・魚を獲って、見て、触って、食べて、海の幸を堪能しよう
 - － 西埠頭で見せたい景観として、釣りが楽しめる場所を観光客に紹介していただろう
 - － 釣り人のゴミや釣りパークの整備等、釣りの環境をもう少し充実させたらよい
 - － 漁港エリアはセリの景観を見せていただろう
 - － 魚の種類が多く、おいしいことを観光客に紹介していきたい
 - － 食事をする場所が少ない
- ・マリナーパーク御前崎内を周辺の道路から見ることもできる
- ・公共交通機関が少なくアクセスしにくい
- ・マリナーパーク御前崎からは富士山、日の出、日の入り、月と海が一体となった景観を見ることができる
- ・空き家も多く、津波の影響も受けやすいところで、地元詳しい人でないと行きにくい、もう少し活用していただろう、全体の景色＋マニアックなインスタ映えする場所としても使えるのではないかと考えている
- ・サンロードでドライブをしながら風景を楽しんでもらおう
- ・良い景観としてヤシの木の道路や夏に海へ向かう車がドライブ景観としてある
- ・しかしながら雑草や雑木があるため改善したい

有識者の視点

- ・港周辺の資源の有効活用
 - － 広く活用されていない漁港の資源(市場のセリ等)について観光プロジェクトとタイアップして活用していただろうか
 - － 釣り等の体験だけでなく、釣った魚を自分達で干物にする体験等、お土産がどのようにしてできるかの過程も知る体験があるとよい
 - － 海鮮なぶら市場で海産物を買って、その場で浜焼きを楽しむことができる仕掛けがあるとよいのではないかと
- ・防潮堤の嵩上げが計画されているため、周辺との景観と調和する整備方策が必要である。
- ・マリナーパーク御前崎が非常にいい場所なので今後キャンプ場に整備していくという話があった
- ・マリナーパークで水平線から上がってくる月を見ることは最高にいいと思う。水平線から出てくる月を見る、あるいは待つことは古来より日本人が愛して来た風習
- ・非日常的な海辺の景観や月とともに美味しいものを食べて酒を飲んでというのは、キャンプ場が整備されれば通年かつ終日にわたって楽しめると思う

目標 1

美しい沿岸部の景観を保全する環境活動



目標 2

御前崎の海を遊び・味わうことができる景観づくり



目標 3

魅力的な眺望景観へのおもてなし



景観づくり方針

- ①海・空・気候・砂浜などが創り出す 美しい御前崎港周辺の自然景観や、ウミガメが訪れる御前崎港周辺の自然環境を維持する

景観づくり方針

- ①今ある地域資源を活用した賑わい景観づくり
- ②賑わい景観と連動したアクセス向上策の検討

景観づくり方針

- ①もてなし空間の維持（海路）
- ②美しい景観の保全とPR
- ③高台を活用した美しい景観を見せる視点場づくり
- ④もてなし空間の維持（陸路）

目標1 美しい沿岸部の景観を保全する環境活動

方針1 海・空・気候・砂浜などが創り出す美しい御前崎港周辺の自然景観や、ウミガメが訪れる御前崎港周辺の自然環境を維持する

	取組み	実施主体
短期	①浜や漁港の清掃 ・美しい砂浜や漁港がこれからも維持されるように地域や利用者が協働で清掃を実施する	・事業者、利用者、地域住民
中・長期	②砂浜の侵食対策	・市、県
	③自然の環境や景観に配慮した企業立地	・事業者
	④「みなとオアシス」認定を受けたにぎわいづくりのための港湾計画策定と関係機関との連携	・市、県

目標2 御前崎の海を遊び・味わうことができる景観づくり

方針2-① 今ある地域資源を活用したにぎわい景観づくり (御前崎港)

	取組み	実施主体
中・長期	⑤気軽に釣りを楽しむことができるゾーンの検討と整備 ・レジャーとしての釣りの振興と、漁業とのすみ分けをするため、釣りを楽しむゾーンを検討 ・さらに釣りを楽しむゾーンとそれに伴うサービス施設(トイレ、駐車場、食事場所等)を整備検討	・市、県

方針2-① 今ある地域資源を活用した賑わい景観づくり (御前崎港)

	取組み	実施主体
短期	<p>⑥漁業体験や見学をツアーやイベントとして企画</p> <p>・魚が釣れる環境や漁業を観光振興やにぎわい景観創出に役立てるため、漁業体験イベント等を企画する</p>	<p>・市、事業者</p>

方針2-① 今ある地域資源を活用したにぎわい景観づくり (マリパーク御前崎)

	取組み	実施主体
中・長期	<p>⑦オートキャンプ場の整備</p> <p>・市ではさらなる魅力向上や観光客誘致によるにぎわい創出を図るため、平成29年度からキャンプ場に係わる検討を進めてきた。キャンプ場整備はにぎわいの景観創出に資すると考えられる</p>	<p>・市</p>
	<p>⑧景観に配慮した防潮堤の嵩上げ検討</p> <p>・県の計画において防潮堤の嵩上げが「マリパーク御前崎」内で計画されている。計画箇所はオートキャンプ場に接するため、景観とアクセスの観点から検討が必要である。この際、「マリパーク御前崎」の外と中の双方からの景観に配慮することが望ましい。</p>	<p>・市、県</p>

方針2-② にぎわい景観と連動したアクセス向上策の検討

	取組み	実施主体
中・長期	<p>⑨その他の観光地や民間事業者（宿泊施設や観光事業者等）と連携したアクセス方法の検討</p>	<p>・事業者、市</p>

目標3 魅力的な眺望景観へのおもてなし

方針① もてなし空間の維持（海路）

	取組み	実施主体
中・長期	<p>⑩景観計画の策定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・港湾の景観を阻害しないような構造物等の意匠形態についてルールを検討する（あらかわふる里のような方針を検討） 	<ul style="list-style-type: none"> ・市、地域住民

方針② 美しい景観の保全とPR

	取組み	実施主体
短期	<p>⑪道路への愛称付けの検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高台からの景観をみることができる女岩の道路に行ってみたくなる愛称を付ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民
	<p>⑫御前崎港周辺ならでの景観をHP、SNS、パンフレットなどで情報発信</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市
中・長期	<p>⑬視点場のさらなる整備と視点場の位置を示す案内看板の設置マップ等の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光客にPRしたい視点場を検討し、場を示す看板を設置する 	<ul style="list-style-type: none"> ・市

方針③ 高台を活用した美しい景観を見せる視点場づくり

	取組み	実施主体
中・長期	<p>⑭女岩区観音堂周辺の緑地公園を、港と富士山が一望できる視点場として整備を検討</p> <p>・視点場であることを示す整備（ベンチの設置等）や、良好な眺望を確保する整備（視界を遮る樹木の剪定等）を検討</p>	<p>・市</p>

方針④ もてなし空間の維持（陸路）

	取組み	実施主体
短期	<p>⑮道路愛護活動の継続</p> <p>・ヤシの木が整然と並ぶヤシの木通り（港内道路11号線）はヤシの木の皮やゴミが投棄されていない美しい道であるため、これからも現状の景観が維持されるように道路愛護活動を継続する</p>	<p>・地域住民、県</p>

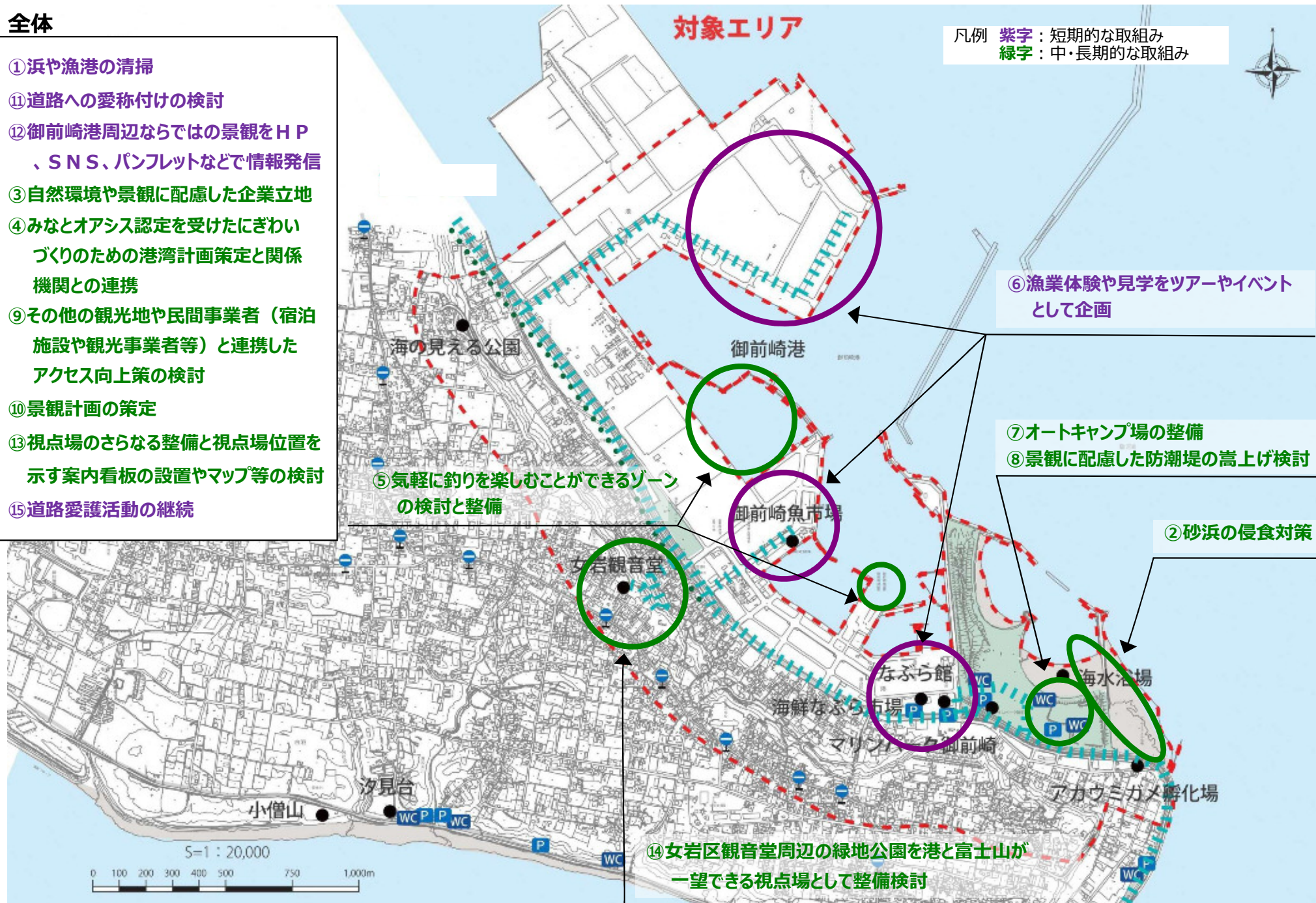
7. 景観施策(案)のイメージ図

全体

- ① 浜や漁港の清掃
- ⑪ 道路への愛称付けの検討
- ⑫ 御前崎港周辺ならではの景観をHP、SNS、パンフレットなどで情報発信
- ③ 自然環境や景観に配慮した企業立地
- ④ みなとオアシス認定を受けたにぎわいづくりのための港湾計画策定と関係機関との連携
- ⑨ その他の観光地や民間事業者（宿泊施設や観光事業者等）と連携したアクセス向上策の検討
- ⑩ 景観計画の策定
- ⑬ 視点場のさらなる整備と視点場位置を示す案内看板の設置やマップ等の検討
- ⑮ 道路愛護活動の継続

対象エリア

凡例 紫字：短期的な取組み
緑字：中・長期的な取組み



⑥ 漁業体験や見学をツアーやイベントとして企画

⑦ オートキャンプ場の整備
⑧ 景観に配慮した防潮堤の嵩上げ検討

② 砂浜の侵食対策

⑭ 女岩区観音堂周辺の緑地公園を港と富士山が一望できる視点場として整備検討